

農時電送

H30 水稻 No.③

〈概況 ～ 育苗目安に準じた早めの移植を！〉

苗の出芽は良好で順調に生育しています。例年よりは種を遅らせた所もありますので早～遅の差はありますが、それぞれ苗質を確認（特に葉齢）し適期を失しないよう計画的に移植を進めて下さい。尚、一ヶ月予報（気象:5/10発表）では高温が予想されていますので、苗質維持・老化防止に全力を上げて下さい。特に不時出穂リスク回避のため、早生系の品種（ななつぼし等）を最優先に移植を行う。

【移植に向けた管理】

〈苗の馴化〉 移植の一週間前頃から外気馴らしを十分行って下さい。（霜でない限り、昼夜換気）
高温:25℃以上は厳禁。 ⇒

〈移植時苗質〉 中苗:3.1～3.5葉
 成苗:3.6葉以上～4.4
 草丈:10～13cm

◎不時出穂させない育苗目安

成苗ポット（H26指導参考より）

ななつぼし:3.6～4.0葉

ゆめぴりか:3.6～4.3葉

*きさら397:3.6～4.4葉

*きたくりん、
ふっくりんこ
はきらら397
に準じる。

〈移植前の追肥〉 移植3～5日前に追肥を行う。
 ……弁当肥（吸収→発根を促す）
 中苗:N成分1g/箱（施肥例:NP57 7g）散布後の水洗い
 成苗: // 0.5g/枠（ // // 3.5g） //

液肥が便利:150～200倍で水洗い
 不要 但し、濃度に注意:100倍（限度）

※「苗の異常褐変症状」が見られる場合は、当面追肥で対応するとともに、早めの移植を行う。

〈病虫害予防〉 初期害虫（イネヒメモグリバエ、イネドロオイムシ、イネミスゾウムシ、フタオビコヤガ、ウンカ類等）
 及びいもち病の予防…各種薬剤の選定及び使用基準を遵守。
 ※イネドロオイムシのアドマイヤー剤に対する抵抗性が各地で確認されていますので薬剤選定にご留意を！

【適期移植について】

〈移植限界気温〉 移植後5日間の平均気温:中苗:12℃以上、成苗は11.5℃以上。

〈栽植密度〉 中苗:m²当たり25株以上(33cm×11～12cm →27.5～25.2株)
 成苗: // 22株 (33cm×13～14cm →23.3～21.6株)

〈浅植えの励行〉 植付深:2cm以内(1.5～2cm) ……本葉1葉が埋まらないように

〈移植後の水管理〉 1) 移植直後と低温や風の日:4～6cm(やや深め)
 2) 2日目以降の晴天日は浅水:1～3cm(水温・地温の上昇を図る)
 3) 低温が続く場合でも、稲が水没しないよう水深は草丈の3/4程度に！

〈除草剤の適期処理〉 各種薬剤の使用基準を守り適切に処理しましょう。一発剤が主流ですが、ミズアオイ、オモダカ、他多くの難防除雑草には体系処理をご検討下さい。
 ……各JAの防除ガイド(草種別の防除例等)を参考に薬剤を選択。

ぼか苗病は
 発見次第抜き取り、
 本田に持ち込まない！

農作業安全・事故防止！ 農薬の安全使用の徹底！